

平成 28 年 3 月 13 日

理学部 物理学科 15312018 齊藤肇

ふすま同窓会事業「平成 27 年度成績優秀な学生に対する留学支援事業」報告書

1. 渡航先

ジュネーブ

2. 渡航期間

平成 28 年 2 月 25 日(木)～平成 28 年 3 月 3 日(木)

3.1 週間の海外研修を経て

今回の研修で、私はスイスのジュネーブ市内にある CERN(欧州原子核研究機構)で 1 週間滞在しました。現地では、山形大学が CERN で行っている研究や、CERN 内の施設を見学し、またジュネーブ市内の中心部へ行き、ジュネーブの街並みや文化を満喫してきました。

CERN 内の見学では、山形大学が行っている COMPASS 実験の目的や測定原理を簡単に説明してもらいました。実験装置などを見てみると、学部で専門授業で学んだ実験器具が置いてあり、今学んでいることが今後の研究等で活かされることを再認識し、今まで学んできたことをもう一度復習しようと思いました。また、COMPASS 実験グループには日本人だけでなく外国人もいるので実験の話をする時は英語で話すのですが、物理の専門用語が英語で飛び交っているのを見て、自分にはまだ英語の語彙力が足りないことを痛感しました。CERN 内の施設は実験のデータを収集する CERN のコントロールセンターや ATLAS のコントロールルームなどを見学しました。ヒッグス粒子の検出方法を簡単に学び、学部の授業で行う実験と実際に現地で行う実験の違いを感じました。

ジュネーブ市内中心部では、ジュネーブ大学、自然史博物館、ボドメール博物館など歴史的に有名な資料や建物があるところへ行きました。市内中心部では堂下さんと一緒に行動した日もありましたが、一人で行動した日もありました。ジュネーブ市内で話す言語は英語の他にフランス語もあるので、一人で行動した時は英語とフランス語を話す機会がありました。また、別の日には糠塚さんとフランスのシャモニーの方へ観光に行きました。昼食はエスカルゴなど日本では一般的にあまり食べる機会のないものを食べ、海外で外国の食文化を体験することができました。

今回の研修で最も大きな成果は、英語を読む、話す、聞く、そして書くことがとても重要であることを海外で痛感させられたことです。CERN の図書館にある本も英語のものが多く、レストランでは英語で話す人が多かったです。空港や飛行機内のアナウンスも英語です。日本語で表示されているものはほとんどなく、話す人もほとんどいませんでした。あらゆる場面で英語を使うことが多く、そのたびに英語の重要さを感じました。また、外国語でコミュニケーションをとることの楽しさを覚えました。成田空港から乗り継ぎする空港であるアムステルダム・スキポール空港に向かう飛行機で、隣の席の人が外国人だったので勇気を持って話してみました。すると、自分の満足いくほどではなかったですが、ある程度の会話ができたので嬉しく、そして会話することが楽しかったです。自分が上手く話せなかった時、相手は微笑みながら励ましてくれました。そして空港に着いてお互い別々の目的地に向かう時に別れの挨拶を告げることもできました。成田からアムステルダムに着くまでの約 12 時間の間に、外国語でコミュニケーションをとることの楽しさ、自分の英語力の理想と現実の差、そして人の温かさを感じました。

この 1 週間で様々な経験をし、今までの自分の考え方を覆すような経験もしました。これらの経験で、物理学、英語の他に様々な学問に興味を持つことができました。今後も勉学に励もうと思います。